

令和7年度横山第一小学校
学校経営計画報告書

八王子市立横山第一小学校
校長 加藤 方浩

令和7年度の学校経営計画による経営により以下のような結果を得ることができましたので、報告いたします。

○学力調査の結果

全国学力・学習状況調査の結果より、国語は、平均正答率で、東京都の平均より9ポイント、全国の平均より5.8ポイント下回ってしまった。全14問のうち3問は正答率50ポイントを切ったが、全体的には無回答率は低く、問題に取り組もうとする姿勢は感じられる。最終問題の記述問題の無回答率は、かなり高く、何を書いたらよいか分からず手を付けられない児童や時間が足りなかった児童が多いのではないかと考えられる。物語文、説明文ともに、書かれている内容を正確に読み取り、自分の考えを書く指導が今後必要である。

算数は、平均正答率で、東京都の平均より10ポイント以上、全国平均より7ポイント下回ってしまった。特に、数直線のメモリを分数で読み取る問題と平行四辺形の書き方の説明を答える問題の正答率が低かった。問題文の理解がきちんとできていない、正しく計算ができない、算数で身に付けるべき基礎基本の力が弱く、日々の学習の積み重ねができていない、既習内容が定着していないことも見受けられる。また、問題に対して、前向きに取り組めない児童も少なからずいることも考えられる。日々の学習でも文章問題を具体的に図に表すなどの手だてを取っていく必要がある。数と計算に関しては、簡単なミスが少しでもなくせるよう、朝学習の取組等の日々の積み重ねを充実させていく。

理科は、平均正答率で、東京都の平均より9ポイント、全国平均より6.1ポイント下回ってしまった。全17問のうち6問は正答率50%を切ったが、その他の11問は正答率が50%以上であった。ただし、70%以上正答している問題は2問だけであり、その問題の正答率も東京都は80%を超えている。記述問題に関しては、無回答率も非常に高く、何も手が付けられない児童も多い。理科においては、選択問題でも無回答の児童がおり、基本的な知識が身に付いていない児童が多いことが分かる。各学年の内容を理解させるだけでなく、定着させ、前年度の学習との結び付けができるような授業の工夫、家庭学習でのフォローを引き続き行っていく必要がある。

市の学力調査の結果より、4年生は、国語は、正答率が72.9%であった。これは市の平均を1.6ポイント上回っている。2つ以上の情報からの読み取りやそれを文章に直すことに苦手意識を感じる児童が多い。算数は、正答率が70.5%であった。これは市の平均を1.8ポイント上回っている。文章題において場面の様子がイメージできず、立式を間違えてしまう傾向が多い。また理由を論理的に考える問題では、正答率が顕著に下がる。5年生は、国語は、

正答率が 63.3%であった。これは市の平均とほぼ同じである。記述式の問題では、正答率が低く、無回答率が高い。C・D層の無回答率は 50%を超えている。内容を把握して、指定の文字数で書き表すことが難しかったと言える。算数は、正答率が 69.5%であった。これは市の平均を 1.4 ポイント上回っている。基本的な計算問題を解く力を身に付けている児童が多くいる。一方で、応用問題については、市平均よりも上回っている設問もあるが、文章が複雑な問題になると、正答率が大きく下回っている。6年生は、国語は、正答率が 69.2%であった。これは市とほぼ同じである。説明文は全体的に正答率が低く、要因として論理的に読むことができていないことが考えられる。算数は、正答率が 54.3%であった。これは市の平均を 3.8 ポイント下回っている。基本的な計算が定着していないことが分かる。特に、小数÷小数や分数を小数に直す問題には課題が見られた。

また、令和7年度の校内研究では、問題意識をもって学習に取り組む児童の育成を柱にして研究をすすめた。児童が「なぜ?」「考えてみよう!」と問題を自分事と捉えて学習に取り組めるよう、教材や発問を工夫し、問題へ向かう意欲を引き出すことにつなげた。

課題解決のために、

○年間 40 回「横一プラス」を行い、国語や算数の基礎的な力（漢字や語彙、計算力）を付ける。

○第4学年から第6学年で、「はちおうじっ子ミニマム」の類似問題に取り組み、定着を図る。

○教員間における授業交換や参観を常時行い、指導力向上を図る。

○研究夕会時に、学級経営力・授業力向上に向けた OJT を実施する。

を取組の基本方針として、具体的には、まず、年度初めに昨年度の学力調査やはちおうじっ子ミニマムの結果を共有し、各学年で基礎学力定着に向けて取り組む問題や単元を選択し、「横一プラス」では、国語や算数の基礎問題や学年の実態に合わせた問題に取り組んでいく。そして、OJT（研究夕会）や一人年に1本の授業公開をし、お互いに見合うことで組織的に教員の指導力向上を図っていく。それと同時に、各教科において児童が主体的に学習に取り組める手だてを講じた授業を年間通して実施していく。

はちおうじっこミニマムの結果より、国語では、漢字の読み書き（選択）は、全体的に正答率が高めだったが、言葉の使い方と意味の選択問題では、同音異義語や正しい熟語（漢字）が分かっていないという課題があった。論理的に正しい文の選択問題の正答率は（75～94）ポイントで、比較的良かったが、複数の登場人物が絡み合う文の正答率は（63ポイント）と低めだった。課題解決のために、意味調べや辞書の活用の時間を取り、読書量の確保や学年に合った本の選定を行っていく。Web アプリの「言葉の達人」を朝学習や家庭学習で取り組んでいく。それと共に、文学教材・説明文教材で、児童に読み取らせたいことを明確にし、学習を進めていけるよう、教材研究をしたり、学年で情報共有したりしながら、教員の指導力を向上していく。

算数では、単純な四則計算のミスが目立った。小数や分数に関しては、計算方法や大小比

較の方法を思いつかない児童やおおよそどれくらいの量感がもつことができていない児童もいた。課題解決のために、朝学習の時間を有効活用しながら、学習したことをアウトプットしたり、これまでの学習を振り返ったりできるようにしていく。必要があれば、戻り学習等、個別に必要な問題を取捨選択していく。ミライシードの活用や課題ドリルでの復習に取り組んでいく。文章題では、問題に対し、%の値と実際の値段をそのまま比較したり、計算したりする児童が散見された。そのため、授業では、割合の意味をしっかりと確認した上で、問題把握を行い、課題解決に取り組むように指導していく。

○基礎学力の定着

朝学習の時間（横一プラス）は、子ども達に、朝から「学習に取り組む」という意識付けにつながり、1時間目の授業から全ての子ども達が意欲をもって学習に取り組むようになっている。

○体力・運動能力等調査結果

体力・運動能力等の調査結果より、低学年は、50m 走のタイムが平均より速く、男女ともボール投げ、反復横跳び、握力が平均より低かった。中学年も、50m 走のタイムが平均より速く、男女とも握力・反復横跳び、ボール投げが平均よりも低かった。高学年も、50m 走のタイムが平均より速く、男女とも握力・反復横跳び・ボール投げ、20mシャトルランが平均よりも低かった。走る種目に関しては外遊びが習慣化されている児童が多く、鬼ごっこなどの走る遊びをたくさんしていることが記録に表れている。その他の種目においては体の使い方を知らないことや日常生活の中で種目と同様の動きをする経験が少ないことが記録向上に繋がっていない要因として考えられる。

課題解決のために、低・中学年は、「反復横跳び」が特に低い傾向にあるので、鬼ごっこ等、素早い動きが必要な運動を多く取り入れていく。また、「握力」も低い傾向にあるので、固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れていく。「ボール投げ」も特に低い傾向にあるので、ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識できるようにしていく。高学年は、「握力」と「ボール投げ」と「20m シャトルラン」が特に低い傾向にあるので、固定遊具を使った様々な運動やタオル絞りなどの握る動きを取り入れたり、ボールを投げる場面を増やし、投げる手と反対の足を一步前に踏み出してボールを投げるなど、体全体を使った大きなフォームで投げることを意識できるようにしたり、なわとび、持久走などねばり強く続けていく運動を取り入れるようにしたりしていく。

○学校 2020 レガシー・・・3年、「蚕について学ぼう」「大好き八王子」、4年「湯殿川探検隊」、5年「八王子調査隊」、「SDGs ってなに」、6年「八王子大空襲」、「これからのわたし」で郷土についての知識や愛情を深め、将来の人々や地球の未来のことを考える授業を実施。

○各種アンケート調査の活用による組織的な指導の充実

市の QU と併せて、校内でも随時 Google Form を活用した QU を行い、その結果を基

に、科学的に個人や学級集団を評価・分析し、学級指導並びに特別支援教育の充実を図った。また、いじめ予防の早期発見にも活用した。

○地域・保護者のニーズに応える教育環境・教育条件の維持・向上

- ・図書ボランティアによる年間を通じた図書室の環境整備（本の修理や季節行事に合わせた本の展示等）
- ・花のボランティアによる年間を通じた花壇の整備
- ・学校司書を利活用した読書指導（12月末で42回の読み聞かせ・ブックトーク等）の充実と図書室の環境整備
- ・児童の大きな事故ゼロ(安全管理の徹底)
- ・年度当初にエピペン研修を実施し、アレルギー事故の未然防止に努めた。
- ・2年生で、絵本作家による出前授業。
- ・3年生で、地域駐在所署員による出前授業を実施。
- ・3年生で、地域にある中西農園においての体験学習を実施。
- ・3年生で、地域にあるスーパーアルプスを見学。
- ・4年生で、車いす・バリアフリー体験と視覚障害者による盲導犬の講話を実施。
- ・4年生で、地域在住の飴細工職人による出前授業。
- ・5年生で、八王子車人形の出前授業を実施。
- ・5年生で、地域にあるトヨタ自動車大学校を見学。
- ・6年生で、東京家政学院大学の留学生と交流。
- ・6年生で、がん教育の出前授業を実施。

○研究授業

- ・年間6回実施（校内研究授業3回、小教研研究授業2回、2年次研究授業1回）、それ以外に授業力の向上のために、指導教諭の模範授業参観（10名）、特別の教科道徳授業力向上セミナー参加（1名）

○校内の大きな事故ゼロ(生活指導の徹底)

○土日の地域行事・・・青少対栲田地区地域清掃（3回実施）、地域防災訓練、どんど焼きに多数の教職員が参加。

○情報伝達訓練(災害伝言ダイヤル)・・・緊急時対応の確認並びに災害対応力の向上

○図上訓練への幹部教職員の参加(組織的な災害対応力の向上)

○教材研究の徹底・・・C4thの週案で常に確認

○授業観察の徹底・・・毎日1回以上実施(校長・副校長が巡回)

○週案作成の徹底・・・100%の作成

○少人数指導による習熟度別指導の徹底・・・全学年で少人数算数を実施、エデュケーションアシスタントによる個に応じた指導の充実。

○授業力向上を目指した組織的な授業改善

- ・「児童が問題意識をもって、学ぶことができる授業づくり」を研究テーマとし、導入や

展開の工夫等について、帝京大学教育学部初等教育学科長の福島健介先生を招聘し、組織的な授業改善に取り組んだ。

- リーダーシップを育む指導の充実
 - ・6年生による全校朝会の挨拶と始めの言葉の発表や高学年が主体となったなかよし遊び企画・運営や委員会・クラブ活動を子ども達の自主性を生かした運営を実施。
- コミュニケーション能力の育成
 - ・問題解決的な学習の推進(意図的・計画的な聞く・話す・聞き合う・話し合う場の設定、ペア学習・グループ学習の充実)を実施。
- 指導計画・指導展開・板書方法・教室経営の指導
 - ・日々の学年主任による指導、並びに主任教諭による教科指導と必要に応じて管理職等の授業観察後の指導を実施。
- 小学校教育研究会(小教研)に、多くの教員を参加させる(オンライン研修を含めて)
- 主幹教諭・主任教諭の育成・・・主任教諭や主幹教諭選考受験への促進。
- 各種主任会への参加・・・教務主任研修会・生活指導主任研修会に100%参加
- 教育実習生の指導教官の義務付け・・・毎年度1回、人材育成能力の向上の場として位置付けて実施
- 学年会の充実と必実施・・・毎日実施
- 人権尊重の教育の推進・・・校内の研修会の実施年1回
- いじめ防止教育の徹底・・・ふれあい月間で児童にいじめ調査アンケートを年2回実施
関連資料適時配布
- 体罰防止の徹底・・・校内の研修会の実施年2回
- 自殺防止教育の徹底・・・教育資料の配布、長期休業の前後並びに日々の児童の様子を丁寧に看取る。
- インターネット・携帯電話等の有害ネットからの被害防止教育の徹底
 - ・横山第一小学校の学校SNSルールの徹底、家庭への啓発と家庭SNSルールの確認
 - ・フィルタリングの徹底、保護者への啓発、ネットの書き込みの中傷等の防止(人権尊重)
- 道徳教育の充実・・・道徳授業地区公開講座年1回、その後意見交換会で、授業のねらいや児童に身に付けさせたい道徳性等を共有。
- いじめ対応の時間の充実と生活指導を主体とした情報交換の実施・・・毎週1回(木曜日)の5校時にスクールカウンセラー参加によるいじめに関する情報共有並び経過報告を実施。その後、生活指導を主体として情報交換、随時校内委員会による情報交換も実施。
- 生活指導上の課題が発生した場合の対処のスピードを上げる・・・その日に起きた事案は、その日に全職員が共有化して、その日に解決に向けた行動を起こす。(全ての事案はそうのように実施し、解決を図った)
- 保護者との連携・・・学校で起きたことや児童が起こしたことは、必ず、保護者にその日

に連絡をする。(その通りに実施し、解決を図った)

- いじめゼロを目指す・・・継続のないじめゼロ、早期発見、早期対応でいじめに発展する前に解決。児童会による挨拶推進活動の取組。
- 不登校などの課題行動に対しての相談
 - ・保健室や応接室等で校長か副校長と生活指導主任・担任・養護教諭が必ず対応した。スクールカウンセラーを活用し、保護者・地域・専門機関との連携を取りながら、組織的な登校支援を行い、全力で課題解決を図った。
- 副籍交流の実施・・・1・4・5・6年生の4クラスで実施。朝の会や帰りの会の参加。学校便り等の交換。図書の日やお楽しみ会等に参加。
- 特別支援教育の推進・・・任命した3名のコーディネーターが中心となって、特別支援教育を推進、特別支援教室専門員と拠点校の柗田小学校との連携を緊密にし、指導の充実を図った。
- 東京都派遣のスクールカウンセラーの活用・・・4・5年生全員とのカウンセリング・個別に児童・教員・保護者との教育相談を実施し、特別支援児童や問題行動に対応。
- 支援の必要な児童の対応・・・毎週1回(木曜日)のスクールカウンセラーも参加するいじめ対応の日並びに生活指導夕会、学年会等、随時情報交換を行い、組織的に問題行動等の早期発見・早期対応、並びに支援を行った。
- 食育の授業を実施・・・1年生は栄養士によるトウモロコシの皮むき体験の食育授業を実施。
- 食育と行事と季節の食材との関連を校内放送等で行う・・・毎日実施。
- 避難訓練の実施・・・年度11回実施
- セーフティ教室の実施・・・年度1回実施
- 一斉下校訓練の実施・・・今年度2回実施(引き渡し1回、一斉下校1回)
- 警察、スクールガードリーダー、学校安全ボランティア、PTAの見守りとの連携協力を進め、児童の安全を確保した。情報交換と連携協力により不審者による事件ゼロ
- 学校の教育活動を地域へ発信・・・学校安全ボランティアの募集の協力を青少対会長や町会長に依頼し、近隣の幼稚園・保育園等との連携を実施
- 学校便りの充実・・・毎月発行を実施
- 学校ホームページの充実・・・行事ごとの更新実施、「今日の給食」を通じた食育啓発
- 学校説明会の実施・・・年度2回実施
- 行事の充実・・・学校行事(運動会、学習発表会を始め各種発表集会等)を学校PRの場と捉え、内容の充実を図った。
- 小中一貫教育の推進・・・相互授業参観・協議、合同あいさつ運動、交流音楽会(オンライン)、はちおうじっ子サミット、中学校説明会を実施
- SDGsの充実と総合的な学習の時間等の実践・・・3年、「蚕について学ぼう」「大好き八王子」、4年「湯殿川探検隊」、5年「八王子調査隊」、「SDGsってなに」、6年「八王子

大空襲」、「これからのわたし」の授業を実施。4年生対象の水道キャラバンや館清掃工場での清掃車とゴミ分別作業の見学。

- 本物体験を重視した教育活動の充実・・・税務署による租税教室を6年生で実施。がん経験者によるがん教育について6年生で実施。視覚障害者による盲導犬の講話を4年生で実施。
- 学校の窓としての事務室経営・・・副校長・都事務・市事務との連絡を密にし、事務室の様々な機能を高めた。事務執行においても迅速かつ適切な対応を図った。消耗品等を共通理解の下、有効活用の実施。学校徴収金については、適正かつ厳正な処理を実施(服務事故ゼロ)。公文書の流れ、保存等の集中管理の徹底に努めた。
- 文書管理規定に基づく管理等・・・個人情報文書管理規定により適切な取り扱いを実施。提出書類等の期日厳守の徹底を実施
- スピード、コスト意識をもった効果的、効率的な予算執行・・・透明性を確保し、効果的に予算を執行。節水や節電、裏紙の活用、全会議資料をPDF化し、コスト削減の徹底を実施。
- 適切な施設・設備の管理・・・常に施設・設備の維持・管理を適切に実施(施設・設備に起因する事故ゼロ)、必要に応じて施設・設備の改善を実施。
- 教育公務員としての自覚と誇り・・・教員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りを持ち、法令等を遵守し、サービスの厳正に務めた。
- 法令の遵守・・・法令により、学校経営を実施。個々の勤務態様を常に明確にした。出張、旅行、研修については、副校長の命を受けて適正に実施。全教職員が保護者や地域の方々からの信頼が得られるような適切な接遇に努めた。